

はじめに
ここまでできた
こと

進捗報告

島崎 圭介

富山県立大学 情報システム工学科

2024 年 11 月 12 日

中間発表を終えて

中間発表でさまざまな意見と質問をもらいました.

質問と疑問点

- ・無理なスケジュールに対してどのような対応をとるか (1)
- ・ランダム性を追加したら並列分散処理はより効果的になると思う.. また卒論での数値実験はどうするのか.(2)
- ・多目的計画問題の際に費用について最小にする場合, 学習支援システムの時に何に当たるのか.(3)
- ・時間と費用ならば, 時間は分かるが費用を最小にすると考えるとどのようなものに置き換えるのか.(4)

(1) と (2) について

(1) については、中間発表の場合では、かなり短い期限の場合にどうするのかということがあったが、それはいかに点数をあげるのよう
にすべての単元をするのではなく、基礎の部分をスケジュールとし
て立てるといったが、今はそのような方針でいこうと思っている。そ
の場合C PMの計算が少し変わってくるという心配があるが、その
面をどうするかを考える。

(2) については、最初は意見だったので大丈夫だが、卒論での数値
実験では、中市さんは実際に使ってみてのアンケート結果だったが、
今回はそれに加えてファジィ・ランダム変数でのC PMの計算結果
と並列分散処理の処理速度についての数値実験として結果を出す予
定です。

(3),(4) について

(3),(4) については、現在考えている途中でそもそも杉山さんのファジィ・ランダムを使用している CPM の方法が元々考えている CPM の計算方法と違うのでどうするかを考える考える必要がある。LS,LF など考慮する方法があるがどちらにもファジィ・ランダムを変数に入れることができているのでどちらの方法を使うかを考える。

まとめ

様々な意見のなかで, なるべく全てのことに對して改善できると良いと考えている. また, 図などの変数の説明が中途半端になったと自分で思うのでその図などの作成などを完璧におこなって卒論の制作を急ぐ必要があると思った.

今後

中間発表を終えて次に卒論の制作に力をいれる。また, 中間発表ではファジィ性のみを導入したので, そこにランダム性を追加して CPM を解くということをまず第一に進めて完成させる。

そのプログラムが完成したら並列分散処理を行って実際に動かせるように進めその間に卒論も書いていかなければならない。